

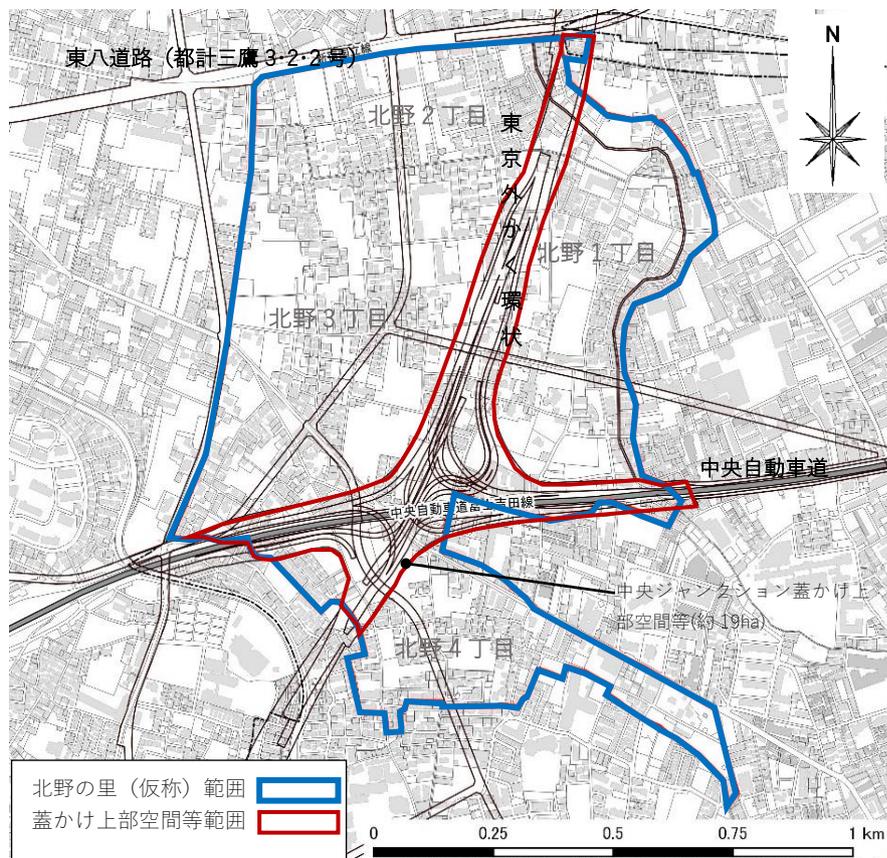
● 北野の里（仮称）

北野は、ほぼ平坦な地形に低層のまちなみが形成され、平地に広がる農地と北野ハピネスセンター前のケヤキ並木や雑木林など一体的な風景を残し、かつて田んぼが広がっていた中川遊歩道が南北にわたるなど、緑と農のある風景が特徴的な地域です。また、江戸時代に開墾されて以来の面影を残す農の営みや、北野地区公会堂を中心とした町会活動、伝統的な祭礼などの良好なコミュニティによる活動の景観が形成されていることも北野地域の特色となっています。



■ 図1 緑と農が調和したまちなみイメージ

東京外かく環状道路の事業化を契機として、北野の良好な緑と農とコミュニティを生かすため、中央ジャンクション蓋かけ上部空間等（以下、「蓋かけ上部空間等」という。）とその周辺地域を第4のふれあいの里である「北野の里（仮称）」として位置づけ、北野全域を対象として検討を進めています。



■ 図2 北野の里（仮称）の検討範囲

○新たな公園空間の創出

北野のほぼ中央に整備される東京外かく環状道路中央ジャンクション（仮称）（以下、「中央ジャンクション」という。）及び周辺都市計画道路の事業実施に伴い、地域の分断や、緑や農地の減少などが懸念されており、事業実施に伴い生じるマイナスの影響をできる限り小さくし、プラスの影響に変えていくため、「蓋かけ上部空間等」に広大な公園空間を新たに創出し、失われた緑の回復や、地域の多世代交流の場の創出を図っていきます。なお、中央ジャンクションの公園等整備事業が遅れていることから、先行して東京外かく環状道路の蓋かけ上部空間等における暫定広場の利用に取り組みます。また、「蓋かけ上部空間等」の周辺においても、地域資源に配慮し、緑と農のある地域特性を活かした適切な土地利用の検討を行うなど、「蓋かけ上部空間等」と一体的なまちづくり・みちづくりを目指していきます。



■図3 北野の里（仮称）の緑化イメージ

○北野の里（仮称）の具現化に向けた取り組み

北野の里（仮称）の具現化に向け、これまで市民参加による取り組みを進めてきました。市民意見を基に策定した「北野の里（仮称）まちづくり方針」に基づき、平成28年に開催した「北野の里（仮称）まちづくりワークショップ」でとりまとめた報告書や市民意見を反映し、平成30年度に策定した「北野の里（仮称）ゾーニング」に基づき北野の里（仮称）まちづくり整備計画策定へ向けた取り組みを進めていきます。引き続き北野の里（仮称）の具現化に向け、市民と協働で取り組んでいきます。

◇北野の里（仮称）における主な検討事項

- ・「中央ジャンクション」整備に伴い分断された緑と水の回遊ルートの再構築による地域資源のネットワーク化
- ・周辺拠点と連携した北野の里（仮称）のまちづくり
- ・多様な機能を持つ農地や緑などの保全・活用
- ・市民参加による、公園や樹林地等の萌芽更新や剪定等による適切な維持管理及び身近な緑としての活用
- ・三鷹の原風景である農の保全・周辺との調和に向けた『農のある風景保全地区』制度の活用
- ・北野の里（仮称）のグリーンインフラ※について

※自然環境が有する多様な機能を社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組み

(4) 市民の広場

市民の広場は、まちづくりの拠点整備と一体的に都市的なアメニティ空間を創出しようとするものです。市の中心拠点や地域拠点は、日頃市民が最も多く集う場所であり、そこを公園的な空間としてモデル的に修景整備や活用を図っていくというエリアです。また、市民の広場は、ふれあいの里が三鷹の独自性（ふるさとらしさ）を発揮する自然や生態面での環境水準を高めるのに対し、文化、芸術、にぎわい、スポーツ、うるおい等の水準を高める機能を担っています。



■表 5-2 「市民の広場」の概要

広 場	主なテーマ	目 標
市民センター周辺エリア	ふれあい・健康 ・スポーツ	・雑木林の保全 ・市庁舎・議場棟等整備に向けた検討
三鷹駅周辺エリア	緑・にぎわい	・再開発事業における“子どもの森（仮称）”の創出
三鷹台駅周辺エリア	河川・にぎわい	・駅前広場の活用 ・地域のまちづくりの推進
井の頭公園駅周辺エリア	公園・にぎわい ・文化	・三鷹市吉村昭書斎の活用
国立天文台周辺エリア	緑・学び・交流	・「おおさわ commons」の整備と天文台の森（北側）の次世代への継承
井口グラウンド周辺エリア	緑・スポーツ	・緑に配慮した井口グラウンド（仮称）整備
環境センター跡地周辺エリア	スポーツ・ コミュニティ	・地域資源の保全 ・環境センター跡地の利活用の検討

● 市民センター周辺エリア

テーマ:ふれあい・健康・スポーツ

市民センター周辺は、市役所を始め公会堂や図書館、学校施設などの公共施設が集積するゾーンとなっています。また、三鷹中央防災公園・元気創造プラザは、健康・スポーツの中核拠点となっています。雑木林の保全や三鷹中央防災公園との連携等を深めつつ、今後の市庁舎・議場棟等整備に向けた検討にあたっては、市民が楽しみ、交流できる緑豊かな空間の創出、将来の交通ネットワークの拠点となる機能など、地域のまちづくりや周辺環境の向上に資する整備をめざします。



三鷹中央防災公園

● 三鷹駅周辺エリア

テーマ:緑・にぎわい

三鷹駅周辺エリアは、市の表玄関、三鷹の顔となる地域です。三鷹駅南口中央通り東地区再開発事業では、活性化の拠点として多くの市民が集まり、まちのシンボル、特に子どもの笑顔と夢であられる楽しい空間となるよう「子どもの森（仮称）」をイメージコンセプトとした再開発事業をめざします。また、にぎわいを創出するため、イベントなどを開催できる広場を整備するとともに、「森の中」を実感できるような緑化を施し、子どもから高齢者まで幅広い世代が、安全・安心して憩い集える広場空間をめざします。さらに、多数の人が集まれることから、災害時には行政から必要な情報を発信するなど、防災拠点としての機能も検討します。



再開発のイメージ図

● 三鷹台駅周辺エリア

テーマ:河川・にぎわい

三鷹台駅前には、市の東部地域の玄関口にあたることで、地域住民によってまちづくりを考える会が設置され、協働のまちづくりが進められています。

地域の声を反映しながら三鷹台駅前広場が令和6年に竣工しました。今後も河川ルートの活用や歩行空間や広場空間の充実、緑の演出など、東部地区の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいの「場」づくりの推進に取り組んでいきます。

また、駅前広場の一部を「歩行者利便増進道路（ほこみち）」に指定してイベント等を開催することで、地域の活性化を図っていきます。



三鷹台駅前広場

● 井の頭公園駅周辺エリア

テーマ:公園・にぎわい・文化

井の頭公園駅前には、神田川遊歩道と都立井の頭恩賜公園東側の入り口にあたり、さらには牟礼の里へのルートの出発点ともなる「場」です。また、駅周辺には、市ゆかりの文学者である故・吉村昭氏を顕彰するため、執筆活動を行っていた書斎を移築・再現し、展示機能や集会・交流機能を有する「三鷹市吉村昭書斎」が整備されています。

こうした地域資源を生かしながら、井の頭公園駅前の広場空間づくりなど、井の頭公園の緑や文化と調したにぎわいの場づくりを行っていきます。



井の頭公園駅前のプランター



三鷹市吉村昭書斎

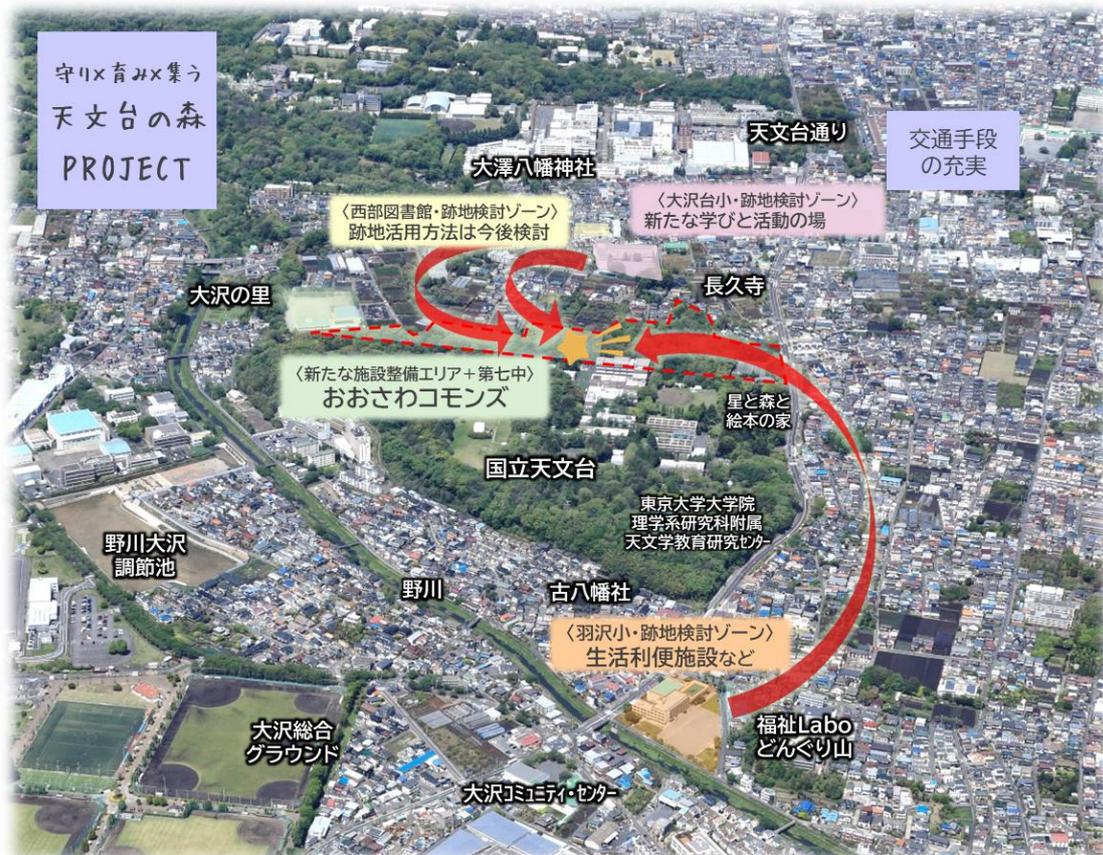
● 国立天文台周辺エリア

テーマ：緑・学び・交流

国立天文台には、緑豊かな環境や文化財となる建築物が残っており、台内には大正時代の建物を保存活用した「星と森と絵本の家」などもあり、自然や科学を感じることができる場所となっています。

令和6（2024）年10月に策定した『国立天文台周辺地域土地利用基本構想』において、国立天文台周辺のまちづくりとして、羽沢小・大沢台小・西部図書館・学童保育所を天文台敷地北側ゾーンに移転し、隣接する第七中敷地を含めた全体を、地域の共有地「おおさわ commons」と位置付けています。そして、緑豊かな環境の中に、森の学校や多世代が集う図書館等の併設による居心地の良い交流の場、地域の防災拠点を創ることとしています。

引き続き、「おおさわ commons」として、施設を整備する範囲をできるだけコンパクトにしながら、計画的な植樹・植栽や適切な維持・保全を行うことで、天文台の森（北側）を都市の里山として次世代に引き継いでいけるよう検討するとともに、建物周辺の緑地部分との一体化や、公園や広場的な利用などについて検討します。



※赤点線は、天文台敷地北側ゾーンを示しています。

● 井ログラウンド周辺エリア

テーマ：緑・スポーツ

井ログラウンドは、これまで暫定的なスポーツ施設として活用してきており、周辺には井ロコミュニティ・センターが立地しています。

令和4（2022）年12月に策定した「井ロ特設グラウンド土地利用構想」では、地域の防災拠点の形成、市内医療体制の充実、地域利便性の向上を整備の基本的な方向性としており、現在、災害時には一時避難場所となる恒久的なスポーツ施設としての多目的グラウンドや、地域住民の交流、防災機能を持つ広場等の整備が進められています。

整備にあたっては、近隣の住宅地などに配慮して人工芝の敷設や安全確保のネット、緑化等による緩衝帯を設置するとともに、災害時の在宅生活を支援する共助の拠点とするために必要な防災設備が設置される予定です。



整備イメージ図

● 環境センター跡地周辺エリア

テーマ：スポーツ・コミュニティ

環境センター跡地は、現在敷地の一部をスポーツ等ができる新川暫定広場として活用しています。周辺には新川中原コミュニティ・センターが立地しており、隣接する新川あおやぎ公園と合わせて、地域のコミュニティやスポーツの拠点となっています。また、地域を流れる仙川には、コサギやカワセミなども飛来し、自然環境にも恵まれた地域となっています。

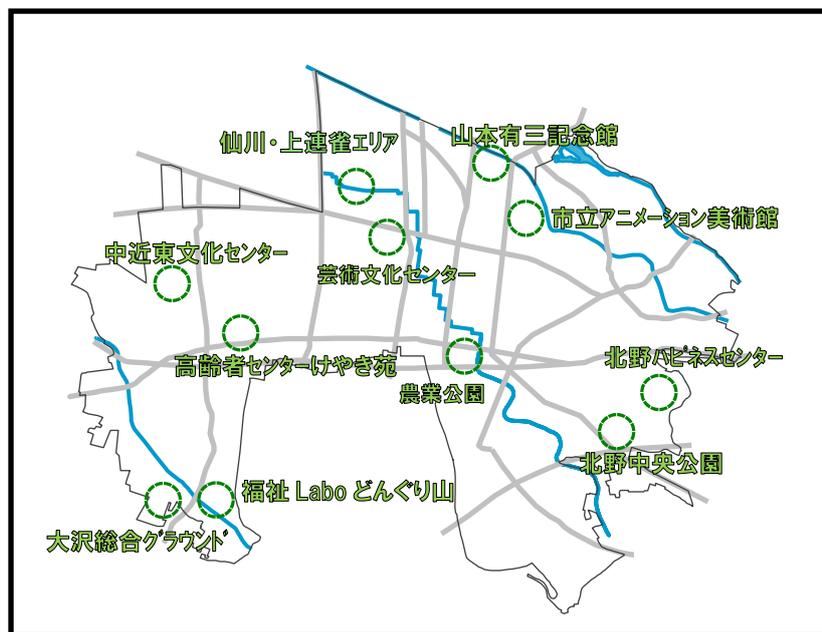
新川中原コミュニティ・センターやあおやぎ公園では、周辺の生産緑地なども貴重な地域資源として生かしながら、一つのコミュニティとスポーツが一体となった「場」づくりに取り組むとともに、環境センター跡地について利活用の検討を進めていきます。



環境センター跡地

(5) 出会いのスポット

出会いのスポット（場）は、回遊ルートの中継点ともなるやすらぎ空間として設置するポイントです。ルート上にある特徴的な施設やふるさと資源を中心に出会いのスポットを配置しますが、将来的にはさらに大きな拠点となりうる資質と資源を有しています。そこで、長期的な展望に立ち順次施設の整備と周辺環境の改善を行っていきます。また、整備にあたっては、スポットに残る樹林や河川



などの緑と水の資源を維持、育成しながら、その魅力の向上を図っていくとともに、緑と水の散歩道の中継点として、散策を楽しむ利用者に対して休息空間にもなるよう配慮していきます。

また、出会いのスポットについては、これまで取り組んできたスポット（場）づくりに加え、地域住民によってまちづくり協議会が設置され、協働のまちづくりが進められている三鷹台駅前周辺のスポット整備を展開していきます。

■表 5-3 「出会いのスポット」の概要

スポット	主なテーマ
芸術文化センター	芸術・文化
市立アニメーション美術館	文化・にぎわい
大沢総合グラウンド	緑・スポーツ
山本有三記念館	文学
福祉 Labo どんぐり山	福祉・崖線の緑
高齡者センターけやき苑	福祉・教育・いこい
中近東文化センター	文化・教育
農業公園	学び・ふれあい・交流
北野ハピネスセンター	福祉・武蔵野の緑
北野中央公園	農風景
仙川・上連雀エリア	水辺空間

● 芸術文化センター

テーマ: 芸術・文化

芸術文化センターは、芸術と文化のスポットとなっています。また、芸術文化センター南側には、比較的大きな広場空間を有し、地域の拠点的な公園である連雀中央公園があります。芸術文化センターとこうした周辺地域との環境の調和を図りつつ、芸術と文化のスポットにふさわしい活用・管理運営を行っていきます。



連雀中央公園



■芸術文化センター風のホール

● 市立アニメーション美術館

テーマ: 文化・にぎわい

市立アニメーション美術館周辺は、都立井の頭恩賜公園の緑に囲まれた心やすらぐ空間となっています。また、美術館は人気が高く、多くの来館者が訪れています。こうした環境を生かしながら、美術館や都立井の頭恩賜公園の緑と調和する周辺の環境づくりを進め、うるおいとにぎわいの空間を創出していきます。



玉川上水



市立アニメーション美術館

● 大沢総合グラウンド

テーマ:緑・スポーツ

大沢総合グラウンド周辺は、スポーツやレクリエーションのスポットとして多くの市民に利用されています。また、大沢総合グラウンドの区域は、都立武蔵野の森公園として野球、サッカー、テニス場などのスポーツ施設がリニューアル整備されました。今後も周辺の緑豊かな環境を保全しながら、緑とスポーツの広場にふさわしい市民のいこいの空間となるよう取り組んでいきます。



大沢総合グラウンド

● 山本有三記念館

テーマ:文学

玉川上水のほとりに建つ山本有三記念館は、大正期の欧風建築の佇まいや庭園風の有三記念公園、玉川上水の緑などとともに、文学のスポットにふさわしいゆったりと落ち着いた空間が創出されています。

今後は施設と調和した質の高い公園提供、南側に位置する井心亭との連携や一体感のある場づくりなどを進めていきます。



山本有三記念館

● 福祉 Labo どんぐり山

テーマ:福祉・崖線の緑

「福祉 Labo どんぐり山」は、国分寺崖線の緑や野川などの恵まれた自然環境に囲まれた地域です。

企業・大学等の協働による先進的な技術・サービスの実装、これからの高齢社会に求められる介護人財の育成、在宅生活の継続を支援するための市独自サービスの提供の3つの機能を有する在宅医療・介護の中核拠点施設と周辺の緑が調和した福祉と緑のスポットとしての「場」づくりを進めます。



福祉 Labo どんぐり山



斜面地の緑

● 高齢者センターけやき苑

テーマ:福祉・教育・いこい

このスポットには、高齢者センターけやき苑や第二小学校、大沢青少年広場などの施設が集積しています。

けやき苑を中心として、各施設の繋がりを形成するなど、周辺の施設と一体となった福祉、教育、いこいの「場」づくりを進めます。



けやき苑



大沢青少年広場

● 中近東文化センター

テーマ:文化・教育

中近東文化センターは、国際基督教大学など、集中する文化・教育施設の中心に位置しており、その北側には深大寺公園などの広場空間が存在しています。

中近東文化センター前の学園通りや隣接する児童遊園の魅力アップを図り、三鷹の文化ゾーンの一つとしての「場」づくりを行います。



大沢むつみ児童遊園



中近東文化センター

● 農業公園

テーマ:学び・ふれあい・交流

農業公園は、農業と緑について身近に学び、ふれあい、親しみ、相互に交流する場となる場所です。

「緑と水の連続空間」の一部であり、仙川を軸に近接する丸池公園や仙川平和公園、新川児童公園との連携を図るとともに、農業振興や緑化推進の拠点にふさわしい環境づくりに取り組んでいきます。



農業公園

● 北野ハピネスセンター

テーマ：福祉・武蔵野の緑

北野ハピネスセンターは、福祉の核施設として位置づけられ、その周辺に残る貴重なけやき並木は昔懐かしい緑の空間を作り出しています。

武蔵野の緑を象徴するけやきの大木の下は暑い夏でもほっと一息できるオアシスとなっています。けやき並木を保全し、ふるさと三鷹を感じることができる貴重な道として、福祉と緑の「場」づくりを行います。



北野ハピネスセンター前のけやき並木

● 北野中央公園

テーマ：農風景

北野中央公園周辺にある一帯の生産緑地は、かつて市内に広がっていた農風景を彷彿とさせる貴重な景観資源となっています。

周辺の農風景を保全し、生産の場として、また、農を感じる場として生かしていきます。



北野中央公園

● 仙川・上連雀エリア

テーマ：水辺空間

仙川・上連雀エリアの仙川は、矢板護岸の典型的な都市河川といえる無機質な形態となっており、その環境の改善が課題となっています。

地域における水循環の確保、防災機能の充実を基本的な方針として、河川と一体的な親水公園（水源の森あけぼのふれあい公園）、仙川の遊歩道化を図り、水と親しみ、川について学ぶ空間づくりを進めます。



水源の森あけぼのふれあい公園

(6) ルートに面した施設等の高品質化

回遊ルート沿いの公共施設や公園緑地は、市民活動の重要な拠点施設であるとともに、緑と水の公園都市の都市空間を形成する重要な資源となっています。これまでも緑や水の拠点スポットとなるようグリーン（緑）、クリーン（清潔）、クオリティ（質）の3要素のレベルアップを目標として取り組んできました。

今後は、これまでの展開に加え、防災機能の充実、地域の拠点的な公園緑地における借地部分の公有地化を図るとともに、老朽化した公園緑地の市民参加によるリニューアル整備を進め、地域レベルの身近なふれあいスポットを創出していきます。

●市民が行うこと

- ・ 接道部の緑化
- ・ 周辺と調和した景観への配慮
- ・ 公園、道路の美化活動
- ・ 地域の緑化活動への参加
- ・ 公園の改修等などの公園づくりへの参加

●事業者・関係団体等が行うこと

- ・ 接道部の緑化、花壇化
- ・ 沿道部に対する修景整備
- ・ 沿道スペースのエントランス的空間の創出
- ・ 地域の美化活動、緑化活動、公園づくりへの協力、支援

●市が行うこと

- ・ 借地公園の公有地化
- ・ 公園緑地の魅力アップ（老朽化した公園等の改修、接道部緑化ほか）
- ・ 都立公園の魅力アップ（都への要請）
- ・ ルート沿いの公共施設の緑化、高品質化
- ・ 防災まちづくりの視点からの整備



都立井の頭恩賜公園



北野公園



都立野川公園



仙川平和公園



東野児童公園



堀合児童公園



高山小学校の接道部緑化



三鷹台児童公園



公有地化を進めている北野公園



回遊ルート沿いの高品質化を行った大沢崖の道児童遊園